

令和4年度 第3回恵庭市学力・体力向上推進会議 会議録

【開催日時】 令和4年9月8日（木）9：30～11：00

【開催場所】 恵庭市民会館 1階 第2会議室

【出席者（敬称略・順不同）】

委員／長岡 秀明（恵庭市教育委員会点検評価委員会）

高桑 純（北海道文教大学）

加藤 裕明（恵庭市社会教育委員）

中山 舞（恵庭市PTA連合会）

河内 紀彦（北海道ハイテクACアカデミー）

佐々木 保（若草小学校・柏陽中学校 学校運営協議会）

中陳 法仁（恵庭市体育協会）

真野 智美（恵庭市小中学校校長会）

野崎 師靖（恵庭市小中学校教頭会）

木村 博子（恵庭市教育委員会指導主事：学力向上アドバイザー）

事務局／岩渕 隆（教育長）、竹内 春実（教育部長）、大嶋 克幸（教育部次長）、早川 剛

志（教育総務課長）、笹村 雄平（教育総務課主査）、柴田 慎一（教育総務課主査）、

石川 五月（教育総務課主査）

【傍聴者】 1名

【内 容】

※議事に入るまでの間、事務局が進行

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 教育長挨拶

※ここから、委員長が進行

4. 議事

○学力・体力向上の取組について

事務局より、資料に基づき説明

【説明要旨】

事前に委員の皆様よりいただいた意見を集約したので、紹介する。なお、各事業の説明は第1回会議で既に行っているため、省略。



学力向上について

① 標準学力検査（NRT）及び英検 IBA の実施について

実施の継続及び実施教科の追加要望について多くの意見があった。また、英検 IBA の実施時期の変更に関する要望があったことについて、所管である道教委に確認したが、スケジュールをあらかじめ設定していることから、実施時期を変更する予定はないと回答があった。こちらについては、大切な意見として今後も市教委から要望を続ける見込みである。

② ALT の配置及び外国語指導に係る地域人材の活用について

ALT の増員や地域人材活用を進めるべきという意見のほか、大学や高校の人材活用といった提案や、外国語専科教員の増加、ALT に対する GIGA 端末の活用といった意見も出された。

③ 教職員への研修

ICT 活用に関する研修の充実、教職員間で補い合う研修、学校管理職の研修、学校訪問形式の研修といった意見が出された。

④ ICT 教育の充実

学習用ソフトの導入、デジタル教科書の活用、オンライン授業の活用、教職員端末の整備を希望する意見があった。

⑤ 学習支援員等の配置

令和 4 年度から配置している特別支援教育支援員の一定の評価、学習支援員の不足に対する文教大学の学生の活用、学習支援員の拡大、適切な配置をすべきといった意見があった。

⑥ 地域による学習指導（学校運営協議会等）

各校でコミュニティルームの設置、地域学校協働本部の設置、コーディネーターの配置といったコミュニティ・スクールの拡充にかかわる意見のほか、コロナ禍によりコミュニティ・スクールの活動が制限されているといった意見があった。

⑦ その他

小学校高学年の教科担任制について、専科教員の充実が難しい場合には学級担任間で授業交換を行うことを検討してほしいといった意見があった。

体力向上について

① 体育授業への支援（体育指導員の派遣）

中学校の体育授業支援、教職員の指導力向上へ結びつく長期的な計画づくりをして欲しいといった意見があった。

② 部活動指導員の配置

指導員の配置増に関する要望や、管理職が教員の意見を把握しておく必要があること、部活動の種類が学校ごとに異なるため、不平等を是正すべきといった意見があった。

③ 部活動の地域移行

地域移行が市として大きな課題であり、体制や予算、計画について早急に整備していく必要があるといった意見の他、プロジェクトチームの立ち上げが効果的であるといった意見があった。

④ その他

部活動の意義を尊重する必要があるが、地域移行は決して部活動だけの問題ではなく、青少年のスポーツ・文化環境の問題であるため、検討を要望するといった意見があった。

5. 意見交換

(学力に関する部分)

A委員：学校や自治体規模で、学習効果の高い取り組みを学ぶ研修をすることが大切だと考える。例えば、全国の約 3000 校で導入されている「学びの共同体」という授業実践の形があるが、これは 3 人～4 人を一組としてグループ学習を進めることで互いに学び合う関係を作っていくものである。これにより、不登校の子どもの減少や学校の荒れが落ち着き、学力向上に繋がることが実証されている。このような授業実践をすぐに学校に導入することは難しいため、まずは教育委員会や教職員に対する研修を実施し、少しずつ取り組むべきだと考える。

B委員：保護者から、不登校に関する相談をよくされるが、不登校の子どもの対応の中で保護者が疲弊しているように感じる。子どもにとって学校側の対応が良くない場合に、教育委員会に相談したり、ICT 教育にかかる「すららネット」の受講により、学校の出席日数として扱ったりする等の対策がとれることを耳にしているが、不登校の子どもの対応としてどのようなものがあるのか知らない保護者もいる。現状では、そのような情報を調べることでできない保護者が一定数いることを確認しているが、不登校の子どもに対する解決策として、どのようなものがあるのか、わかりやすくまとまっているものがあると良いと考える。

事務局：現状では、毎月の広報で不登校の教育相談に関する記事を書いている。また、不登校の子どもに対して、島松小学校内で適応指導教室を開設しているが、今後も拡充していく方針である。不登校の子どもの保護者には、学校を通して適応指導教室等の案内を積極的に進めていきたいと考えている。不登校となった原因によっては必ずしも学校に通学することが全てではないこともあるため、弾力的に対応したい。

A委員：不登校の子どもは全国で20万人おり、本市においても喫緊の課題だと捉えているため、北海道文教大学としてもできることがあれば協力したいと考えている。この問題を解決していくためには、子ども同士の関係性を良好にしていく必要があると感じる。また、学力向上にも影響を及ぼすものであると認識することが大切だと思う。

C委員：恵庭市における令和4年度の全国学力学習状況テストにおける小学生の成績は、前年と比較して低下している。2年ほど前から、100人ほどの子どもたちが学校へ登校、不登校を繰り返しているため、学力が向上しないことは当然のことのように思える。コロナ禍以前では、成績が下位25%の子どもの学力レベルを上げることに注力しており、一定程度の成果は得られたものの、コロナ禍での不登校によって元の学力に戻ってしまったように感じる。これからは、成績が4の子どもの学力をどのように5に上げていくかが大切だと感じる。また、ICTを授業に活用しながら、子どもたちのICT操作能力を高めていくことが学力向上に繋がると考えている。全国学力学習状況テストは、いずれは紙媒体からタブレットでの検査に変わっていくと思われるため、ICTの活用慣れしておくことが必要である。さらに、教員のなり手不足が問題となっていることから、今後は対面での授業ができなくなっていくと考えられるため、教員が働く環境を良くしていくことや、子どもたちの未来を見据えた対策を打ち出していくことが必要であると考えます。

D委員：令和3年度まで不登校の子どもにかかわってきたが、現状の教育に関する中心的な課題であると捉えている。不登校の理由は様々であるが、子ども達は共通して自信を喪失しているように感じる。学校や保護者、教育委員会等がそのような子どもに丁寧に声を掛けて、自信を持たせてあげることが大切であると考えます。教育支援課を中心として、具体的な対策を考えていると聞いているが、大いに期待している。

事務局：恵庭市において、小学校における不登校児童が5年で5倍に増加、中学校における不登校生徒が5年で1.7倍に増加している。また、18名を定員としている「ふれあいルーム」を利用する子どもが3年で1.8倍に増加しており、1日平均では12～13人、多いときには20人近く利用しているのが実態となっている。このように、「ふれあいルーム」の利用人数が増加傾向にあることが課題となっていることから、今後、新たに「ふれあいルーム」の増設を進めているところであり、10月から試行的にスタートする予定である。この取り組みが好調であれば、令和5年度から本格的に1か所増設する見込みである。現状、島松小学校区と恵北中学校区の子どもが既に有明町に設置している「ふれあいルーム」に通うには遠いため、島松小学校と恵北中学校に校内教育支援センターを試行的に設置している。このことにより、不登校の子どもが別

教室で学校生活をする環境が整い、少しずつ不登校が改善している子どもがいることを確認している。将来的には、「校内教育支援センター」と「ふれあいルーム」をすべての学校に設置することで、登校できるが教室に入れない子どもは「校内教育支援センター」を利用し、登校できない子どもは「ふれあいルーム」を利用するといった環境を少しずつ整備していきたいと考えている。このようにして、不登校の子どもに様々な選択肢を用意することで、家ではなく可能な限り外に出てもらいたいと考えており、すべての子どもに平等に学びの保障をしていきたいと考えている。これらを実行していくため、市教委としては予算要求をしながら、1つ1つ事業を進めていきたい。

E委員： 恵庭市は他の地域より不登校の子どもが多いように思えるが、こちらの原因が明確に判明しているのであれば、教えていただきたい。

D委員： 石狩管内の江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市の5市の中では、不登校の子どもの割合は多い方ではない。しかし、人数は相当数いるため、深刻な状況にあることは間違いないといえる。

F委員： 本校では、多い月では不登校の子どもが30人ほどいることもある。現在、ふれあいルームに10名ほど生徒が通っているが、今後もふれあいルームと関係を密にしながら、不登校改善を目的とした働きかけをしていきたいと考えている。また、家庭の方針によっては、人間関係のトラブルによりしばらく子どもを休ませようとする保護者もいるが、学校は社会に出たときの人間関係を学ぶ場所でもあるため、安易に休ませることはしないようにしている。

G委員： 松恵小学校では不登校の子どもはいないが、何か心配事が起きたときに子ども自身が自分の思いを伝えることが大切であるため、先日、スクールカウンセラーの先生と連携し、SOSの出し方に関わる授業を実施した。その中で、子ども自身の精神状況を記入したチェックシートを確認したところ、「自分の思っていることは誰にも伝わらない」「自分は運が悪いからいろんなことがうまくいかない」という部分に○をつける子どもが多く、危惧しているところである。些細なことがきっかけとなり、不登校につながりかねないため、担任間で子どもの情報を共有し、子どもに寄り添って指導する必要があると考えている。

(体力に関する部分)

事務局： 配布資料の体力向上の部活動の地域移行にかかる委員からのご意見の中で、①部活動は教員の「全員顧問制」なのか②平日・休日の活動日数や活動時間はどれほどなのか③教員が休日に出勤する場合の本市の手当額はいくらかといった質問があったため、こちらに回答させていただきたい。

まず、①は、中学校の教員が強制的に部活動の顧問とならなければいけない制度はない。しかし、働き方改革の観点から複数顧問制を推進しているため、多くの教員が部活動に関わっている状況である。

②は、恵庭市立学校における部活動のあり方に関する方針の中で、休養日や活動時間について設定しており、1週間あたり休養日を2日間程度としている。平日の活動時間は2時間程度、休日の活動時間は3時間程度となっており、平日は4日、休日は1日の活動を目安として、1週間あたりの活動時間の上限を11時間としている。

③は、道教委において教員特殊業務手当を設けており、3時間以上の業務に対して一律で2,700円が支給されているところである。

H委員：恵庭市体育協会としては、部活動の地域移行に関して、現状の課題の整理を進めている。1つめは、体育協会に加盟している24団体の中で、日本スポーツ協会または中学競技団体が養成するスポーツ指導資格の保持者の人数を把握する調査を進めていることである。2つめは、地域移行の受け入れ先としてスポーツ庁から提言されている総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団に対して、移行先として受け入れる余地があるのか、受け入れるならどのような課題があるのか等を確認するアンケート調査を進めていることである。また、正式に確認がとれたわけではないが、令和5年度の中体連から地域のスポーツクラブが参画できるという情報が入っているが、これを誤認し、一部の指導者の間では市内の中学生を集めて新たなグループを作って既存の部活動に対抗しようとしていることを耳にしている。このようなことがないように、今後の部活動の取り組みについて、市教委としての方針を示す必要があると考えている。令和5年度から3年かけて地域移行を進めていくというのが国の指針であるが、まずは土日の活動から地域に移行していく必要があると捉えており、平日は教員、休日は地域が部活動に携わるといった指導が実際にできるのか危惧している。令和5年度の恵庭市内のサッカー部については、恵明中学校のみが単独で大会出場可能な人数である11人を揃えることができると把握しているが、そのほかの中学校に在籍している子どもは希望しても人数が少ないために大会に出場できないといった事態につながる可能性がある。このように、3か年かけて地域移行を進めていくといった悠長なことを考えていられないクラブも存在するという事実を市教委においてもしっかり認識していただきたい。本会議の提供資料の中で、恵庭市に部活動指導員が3名ほど配置されているとあるが、部活動指導員の導入と地域移行をどのように考えていくか整理する必要があると思う。市教委としては、今後も部活動指導員の拡充を進めていく方針とのことだが、指導員の拡充ではなく、地域移行にかかるコーディネーターを雇用した方が効率的だと考えている。これについては、既に教員を退職して部活動に

精通している方を採用し、中学校の窓口になりスポーツクラブと連携してコーディネーターしていかなければ、進まない問題であると捉えている。

事務局:部活動指導員については、現場のニーズを把握しながら拡充していく方針だが、部活動の地域移行の進み具合とともに整理していかなければならない問題だと捉えている。また、コーディネーターの雇用においては、予算措置が必要となる面があるため、令和5年度の国からの予算配分に注視しながら考えていきたい。部活動の地域移行に関して、国からの推進計画が不透明な部分はあるが、現場の意見をふまえ、市教委としてできることから進めていきたい。

事務局:管内の他市教育長との会議で部活動の地域移行の話題があがったが、他市と比較しても恵庭市体育協会は積極的にこの件に携わっていただいていると強く感じる。総合型スポーツクラブの立ち上げや地域移行のアンケート調査等、前向きに対応していただき、大変感謝している。女子ソフトボールやサッカーなどの連合チームでの大会出場関係については、中体連事務局が整理していくものと捉えている。部活動指導員の配置については国の指針に則って実施しており、学校からは高い評価をいただいているが、今後はスポーツ庁でどのような位置づけとなっていくのか見定めていきたいと考えている。今後は、国の方針を精査しながら、1つずつできることを進めていきたいと考えている。

I 委員:部活動の運営にかかわって、意見が3つある。

1 つめは、部活動の地域移行を考えたとき、まず地域について知ることが大切だと考えている。地域のクラブチームがどのくらいあるのか、各中学校にどのような部活動があるのか、小学生の段階で希望する部活動は何か等、地域の実情について市教委で把握すべきものがあると思う。

2 つめは、大会に関して、中学校の部活動として出場できるのか、クラブチームとして出場できるのか明確にしておくことで、活動の選択肢が広がり、子どもとしても保護者としても安心して活動できるようになると思っている。現状では、クラブチームが中体連の大会に参加することができない。また、柏陽中学校では陸上部がないにもかかわらず、子どもが陸上の中体連の大会に出場するために、教員が大会に帯同しなければならないことがあったが、教員の働き方改革の面から考えても、改善していかなければならない課題だと認識している。

3 つめは、地域移行を進めていく中で、部活動の指導に携わりたい教員に対して補償があれば良いと考えている。例えば、退勤後にクラブチームの指導をしている教員に対して、ハイテク AC アカデミーから謝金がもらえる仕組みを作る等、教員にとって多くの選択肢があると良いと考える。また、そのようにしてクラブチームの指導者を増

やしていかなければ、クラブチームの存続も危うくなり、子どもの運動する機会が減少していくことに繋がると考えている。

H委員：2つめの意見については、これから整理していく課題だと考える。また、3つめの意見については、教員が任命権者の許可を得たうえで活動し、謝金を受領することについては法律的に問題ないと認識している。

事務局：1つめの意見については、部活動を積極的に取り組みたい子どもや消極的な子どもに対して、何らかの情報提供をしていくべきだと捉えている。今後、校長会や教頭会と連携を図り、進めていきたいと考えている。

2つめの意見については、まさにこれから進めていくべき課題だと認識している。

3つめの意見については、費用弁償の範囲内であれば謝金の受領は問題ないと把握しているが、具体的な取り扱いについては、今後、国の担当課が整理していくものと考えている。

E委員：高校では経済的な事情から、野球等の部活動ができない世帯があることが問題となっている。中学校においても、部活動の地域移行を進めることでさらに経済的負担が増し、運動したくてもできない子どもがでてくる恐れがあると考えている。そのようなことのないよう、市教委としての方針や予算措置をしっかりと整えるべきだと思う。

A委員：子どもたちがスポーツをするうえで、平等性があることが大切だと認識している。今回の会議で、スポーツクラブでもすべての子どもが楽しめるように多くのことを考えていることがわかり、感激した。

F委員：今後、本校に部活動がない陸上や柔道、水泳などをしている子どもが民間スポーツクラブの選手として中体連の大会で参加できるようになれば、個人種目に限らず団体種目での参加が可能となり、子どもたちの運動の可能性が広がることになる。また、教員が引率する負担がなくなるとさらに良いと思う。とても建設的な意見が多く、学校としてはぜひ地域の方々に支援いただきたいと感じている。

6. 次回の会議日程について

事務局：委員の皆様には、貴重なご意見・ご提案をいただき、感謝申し上げます。今後の学力・体力向上につながるよう取り組んでいく。次回の第4回会議は、来年の2月に開催を予定している。日程の詳細については、後日調整させていただきたい。

7. 閉会